

台東区区民憲章策定区民会議
第5回草案作成グループ会議 議事概要

平成18年8月18日(金) 17:00~19:00

台東区役所1004会議室

1. 本文について 第1の柱立てにおける修正案について

- ・ 第2の柱立て以降は文字数がほぼそろっているのに、第1の柱立てのみ文字数が異なる。このことを重視して、第1の柱立ての文字数も同じにするとすれば、「こころゆたかなまちにします」を別の表現にする必要があるのではないかという意見が聞かれた。例えば、「こころゆたかになります」なども想定されるがいかがか。
- ・ 「たからものをうけつぎ」に続く文章としては、「こころゆたかな」が適当だと思う。
- ・ 「こころゆたかな」は美しい言葉だと思う。「こころをみたま」 という表現もあると思うが、「まち」にうまくつながらない。字数については揃った方が見た目はきれいだが、1、2文字の差はよいのではないか。「こころ」という言葉を生かしたい。
- ・ 第1の柱立ては、受け継ぐ心の大切さが最も伝えたい内容であり、「こころ」を外すことには違和感がある。文字数をどうしてもそろえるとすれば「こころあるまちにします」としてはどうか。
- ・ 「たからもの」を受け継いだ後にどのような状態になるか考えながら、「心」につながる形容動詞を探してみた。「大切(たいせつ)な」まちではどうか。
- ・ 「こころゆたかな」に代わる表現を考えると、気配りということで「こまやかな」なども想定されるがしっかりこない。適当な表現がなければ無理に文字数をそろえる必要はないのではないか。
- ・ 「こころゆたかな」という表現は、他の自治体の憲章にも使われているため新鮮味がないことが残念だが、このままでよいのではないか。

ここで三輪副会長より以下のアドバイス・補足等があった。

- ・ 文字数を全部そろえることで、徹底して作りこんでいるという意志を伝えることができる。さらに、5か条とも全部ひらがなで文字数がそろっていれば、メッセージ性はより強くなる。
 - ・ 個人的には、台東区の区民憲章の本文に「こころ」という表現が抜けているのは、これまでの議論の経過を踏まえるとよくないと思う。ただし、「こころある」という表現は、良心を指すのでふさわしくないとされる。
 - ・ また、その他の柱立てについても、「いつくしみ」「はぐくんで」という表現には違和感を覚える人がいるかもしれない。さらに、「すこやかな」という表現が果たしてベストの表現と言えるのか、疑問を覚える人がいるかもしれない。
- 以上をふまえて、以下の議論がなされた。

- ・ 「こころゆたかな」に代わる表現は見当たらない。
- ・ 「～かなまちにします」は全部そろえたい。文字数をそろえなくとも文字間の調整で十分でないか。
- ・ 第1の柱は、最も台東区らしいセンテンスなので、あえて文字数をはみだしてよいのではないか。

第1の柱立てについては、現案のままとする。

2. 前文について

- ・ 平和や安心・安全については、存在は当然であると考えている。他の言葉で表現されているものと理解している。また、台東区には平和都市宣言があることから、「平和」という言葉を区民憲章に入れる必要はないであろう。
- ・ 歴史と文化以外で、もう少し地域の多様性を表現できないか。台東区史には、「台東区は多様な活動が営まれる地域」と書いてある。
- ・ 地域の多様性については、基本構想で十分に表現されているので、区民憲章で表現する必要はないのではないか。
- ・ 回顧趣味に終わらない「あしたへ」という副題を受けた未来の方向性まで表現できないか。過去の栄光を誇りに思うことだけに終わらない、進取の精神や先駆的な役割を果たしてきた産業なども表現できないか。
- ・ 未来への志向性を表現することには賛成だが、「次の世代」という表現はしっくりこない。
- ・ 未来があるのは若い人だけに限らない。「老いも若きも」という柔らかい表現にしてはどうか。そうすると、本文で削った「夢」を入れることができる。
- ・ 神田の人も「粋」という。台東区の「粋」と何が違うのか。
- ・ 神田の「粋」は、神田明神の「粋」であり、現代的な意味での「粋」とは異なる。どこに住んでいようとも「粋」な人は「粋」である。
- ・ 浅草が粋であることは理解できるが、上野も粋でよいのか。台東区民全員が「粋」な訳ではない。どちらかと言うと泥臭い感じもする。あえて「粋」という表現は使用しなくてもよいのではないか。
- ・ 「わたくしたちのまち台東区は」は、「台東の地」としてはどうか。
- ・ 過去から未来へつながっているニュアンスが出ないか。
- ・ 「つなげる」といった意味合いは、本文の第1の柱立てで出てくるので、前文に用いると重複感がある。
- ・ 商業的な側面も出せないか。
- ・ 匠が伝統工業だけでなく広く工業全般を指すのは間違いないが、純然たる金融業・観光

業は漏れてしまう恐れはないか。

- ・ 台東区という名称は知名度が低いので、「台東区」はこのまま強調したほうがよい。

以上の議論から、以下の文を案として作成

(前文)

わたくしたちのまち台東区は、江戸の昔に「花の雲 鐘は上野か 浅草か」と詠まれ、
今も工夫に満ちた匠の技や気さくで人情あふれる暮らしがあちらこちらに息づいています。

わたくしたちは、この台東区を誇りとし、先人が築いてきた文化や環境を大切に、
より素晴らしいまちを目指します。

以上